

ゼロカーボンシティみささ宣言

鳥取県の中央部に位置し南は中国山地の脊梁をなす三朝町は、町面積の約90%を森林が占め、1級河川天神川とその支流が流れる豊かな緑と水を基盤とし、自然と共生する生活をつくりだしてきました。

近年、地球温暖化による気候変動により、猛暑や集中豪雨などの自然災害が頻発しております。本町においても、例外なく自然災害の激甚化が予想され、気候変動や地球温暖化は身近な問題として認識すべき状況にあります。

こうしたなか、2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が、国際的に広く共有され、この目標を達成するためには、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロ（カーボンニュートラル）にする必要があります。

本町の多くの森林は、町民生活で排出される二酸化炭素の多くを吸収し、豊かな水は自然エネルギーを供給していますが、世界的な規模からすると人間が生活していく以上、二酸化炭素の排出は避けられず、共同した二酸化炭素削減への取組みは必要です。

町民や事業者として、豊かな自然の恩恵に甘えることなく、これまで以上に生活と活動の中で、二酸化炭素削減を意識することが求められます。

本町の豊かな自然環境を未来に継承し、三朝町は、国際社会の一員として、2050年までにカーボンニュートラルを目指し、全世界で取組まれる脱炭素社会の実現に向けて、町民や事業者と一体となって取り組む「ゼロカーボンシティみささ」をここに宣言します。

令和5年1月27日

三朝町長

松浦 弘幸